

1 事業実施の成果

部 署	目 標	成 果	摘 要		
会 員	正会員 26名 協力会員 28名 利用会員 160名	正会員 25名 協力会員 23名 利用会員 157名	正会員は設立当初から在籍の方が多く、高齢により退会され減少している。		
職 員	令和6年3月31日現在	正職員 パート 計	備 考		
	管理事務	1	1	2	職員不足のため人材確保戦略を実施し正職員4名、パート職員2名を獲得できたが依然として不足している状況。
	支え合い活動 よってこ・だんだん	1	0	1	
	グループホーム喜楽・喜楽II	0	0	0	
	デイサービスセンター喜楽	10	11	21	
	多機能ケアの喜楽	4	4	8	
	訪問介護の喜楽	7	12	19	
	ケアプラン介護相談の喜楽	2	4	6	
	地域密着デイの喜楽	2	2	4	
	計	5	4	9	
		32	38	70	
法人役員	理事長 恩田 初男 副理事長 陶山 典子 監事 赤坂 一郎	理事 原島 秀克 理事 佐藤 富代 理事 曾根 勝 (北成島区長職)	理事 飯塚 裕 理事 小川 加津子		
部 署	目 標	成 果	摘 要		
法人全体	①改善提案から「より良い法人・事業所」へ改善項目の実施	法人内での情報伝達をメールで行う仕組みを構築した。	抗原検査の日程など共通する予定を一齐送信で伝えている。		
	②業務継続計画の策定と実施への取り組み	感染症及び自然災害の業務継続計画を作成した。	6年度よりは計画を用いて訓練を行っていく。		
	③人材確保戦略の確実な実施により新規職員獲得	正職員4名、パート職員2名を獲得できた。	依然として不足している状況。		
	④利用者獲得により増収をはかり職員賃金改善する	介護保険収入が予算を概ね達したので5年10月、6年4月に賃金改善を行った。			
支え合い活動	理念「会員相互の支え合いで安心して暮らせる地域社会を目指す。」				
	① 協力会員 28名 利用会員 160名 チケット販売目標 900円券 3,000枚 450円券 1,700枚 500円券 5,100枚 100円券 5,600枚	① 協力会員 23名 利用会員 157名 チケット販売実績 900円券 2,099枚⇒70% 450円券 1,600枚⇒94% 500円券 3,964枚⇒78% 100円券 4,570枚⇒91%	<実績の要因> ①900円・500円券の達成率低下⇒県外や遠方への受診・外出の減少 ②活動回数の減少⇒10件/日を達成できた月が3回(12月・2月・3月)のみだった。		

	② 個々人の安全運転スキルアップの為、ドライブレコーダーの活用（運転評価のデータを検証）	契約している車両保険会社の方に講話を依頼し、DVDによる学習と自車ドライブレコーダー映像の検証を行った。 8/4 開催 10名参加。 12/6 運転適性検査 4名参加	大変参考になった。
	③ 誰でも同様のサービスを提供できるよう情報の共有（急な依頼への対応）	誰かしらが対応可能なケースが増えた。	1件あたり少なくとも3~4人の協力が担当できるようにした。
地域の居場所 よってこ松沼	理念「人とのつながりをつくり笑顔になれるところです。」		
	① よってこ松沼の発展のために視野を広げて方向性を考える。 地域との連携を課題に挙げ松沼町と区民会館でのイベントを行った。また松沼町の回覧板に毎月のチラシを入れた。コロナが明けて少しずつイベントを行えるようになってきた。		
グループホーム 喜楽	理念「地域社会の中で人とのつながりを大切にし、その人らしく、あなたと共に暮らします。」		
	① いきいき働ける職場づくり	職員が利用者に感謝を多く伝えることで、利用者からも感謝の言葉を引き出し、お互いに安心・信頼が生まれた。	何気ないありがとうの言葉で事業所全体の雰囲気を変えることができた。今後も継続する。
	② 利用者同士の交流の場を作る（ラジオ体操を外で行う）	外での体操は天候に左右されたがユニット間の交流の場になった。	今後もラジオ体操は毎日継続して行っていく。
デイサービス センター喜楽	理念「デイ喜楽は、楽しみをもってゆっくり過ごす、あなたのもう一つの家です。」		
	① 安定した利用者の確保を継続する	年間を通し安定した利用者の確保が出来た。	引き続き継続できるようにする。
	② 在宅生活が継続できるように支援する	利用者や家族の様子にも気遣い、ケアマネとも連携することが出来た。	信頼関係を築き安心して利用してもらおう。
	③ 職員の個人目標の達成に向けて全員で協力する	月ごとに職員ひとりひとりの目標を達成するようにした。	個人目標の達成をすることで職員のスキルアップに繋げる。
多機能ケアの 喜楽	理念「一人ひとりが主人公。私たちは、あなたらしい生活を地域社会の中で、ご家族と共に柔軟に支えます。」		
	① チーム全体の質を上げ、職員同士の連携プレイでチームケア向上につなげる	申し送りや記録を通して情報共有ができ、職員同士の連携が取れることが増えた。全体の質については、できる職員が無理をしてしまい、できない職員は変わらなかった。	質を上げようという意識が薄い場合、変わっていくのは難しい。意識をどのように維持するのが課題である。

	② 利用者・職員共に、心身の健康を維持する	コロナは感染者はいたもののクラスターにならず最小限の被害に抑えられた。救急車要請が何度かあったが、その場で出来る最善のことは行った。余裕の無さからくるストレスや負担で心の健康は保てていなかった。	今後も感染対策及び体調管理に努めていく。
	③ 新規利用者の獲得	増減はあるが24名に達した月もあった。家族からの要望に良く応え、様々なリスクや困難なケースも受け入れ目標達成に努めた。	状況により変動はある。利用が長くなると通いよりも泊まりが増える傾向があり、新規利用者を受け入れにくい状況が生じる。
地域密着デイの喜楽	理念「私たちは、本人と家族が安心して自宅生活を続けられるよう支援します。」		
	① 事業所の安定経営 (契約者数35人以上を目指す)	予算は達成出来たが、令和5年度末時点で契約者数31人だった。(達成率80%)	大型の福祉車両(キャラバン)を練習し、活用し始めたことで送迎対応の幅が広がった。
	② 事業所の美化(整理整頓やプランターへの花植えで季節感を演出する)	整理整頓は部分的な片付けに留まった。園芸ではデッキのプランターに花を植え利用者様に水やりをしていただいた。(達成率65%)	すぐに使用しない物は倉庫へ片付けることが出来た。畑に植えたひまわりが好評で散歩で通った方が写真撮影をしていた。
	③ 職員のスキルアップ(担当制の学習会を毎月の会議で行う)	職員会議にて自ら学習した内容を持ち回りで発表した。ほぼ全員実施することが出来た(達成率70%)	口腔体操について等、業務に取り入れられた物もあり発表後も学習が活用されている。
訪問介護の喜楽	理念「私たちは「笑顔」「安心」「生きる気力」を届けます。」		
	① ゆとりを持って業務が出来るように体制を作る	業務を分担して進めたが、しっかりと体制を作るまでは出来なかった。	サービス以外の業務を効率よくこなせるよう工夫する。
ケアプラン介護相談の喜楽	理念「介護に係る相談を提供することで地域に貢献する。」		
	① 介護支援専門員を増やす。指導し育てながら自らも成長する機会とする	1名入職したが半年で退職となったため人数変わらず。	引き続きケアマネージャーを募集する。
	② 他職種の専門家との交流を図る。利用者の困りごとを解決できるよう人脈を得る	障がい者相談支援センター、権利擁護等と話し合い、利用者を見人に結びつけた。	今後も引き続き多事業者との連携を深めていく。
	③ 法人事業所の利用者を確保し、安定経営の継続を図る	サービス調整時、法人事業所の空き状況を確認しながら利用者を振り分けた。	引き続き利用者に当法人の紹介を行っていく。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数
支え合い活動	日常生活で誰かの手助けが欲しい時、会員相互の支え合いで安心して暮らせる地域社会を目指す活動。	活動日数 317日 延べ活動回数 2779回	利用者の 自宅他	延活動者数 2877人	何らかの理由で日常生活に困っている人延べ利用者数 3214人
地域の居場所 よってこ松沼	地域の人がだれでも気軽に来られ、親しく笑顔になれる交流の場として居場所を提供。	計87日 行い、10 時～14 時で営業 した	館林松沼町 よってこ 松沼	スタッフ 延べ261人	延べ来所者 667人 営業日数合計 87日 1日平均 7.5人
グループホーム 喜楽の事業	介護保険において認知症の人へ共同生活住居において、介護や生活支援サービスを提供し、地域との繋がりを大切に喜びと安らぎを持って生活してもらう事業	365日 24時間	グループ ホーム 喜楽 喜楽Ⅱ	管理者1名 看護師1名 正職介護職員 9名 パート介護職員10名 計21名	認知症のため自宅での生活が困難な人 喜楽 9名 喜楽Ⅱ 9名 共用デイ 1名 計 19名
デイサービス 事業	介護保険において認知症の人の自宅での生活を支えるための通いで介護サービス事業	310日 日曜日 及び 12/30～ 1/2休業	デイサー ビスセン ター喜楽	管理者1名 正職員3名 パート介護職員 4名 計 8名	館林在住で認知症のある方 契約者 26名 延べ利用者数 3,252名 1日平均 10.5名
多機能ケアの 喜楽の事業	利用者個別の利用の仕方に対応し、通所・訪問・ショートステイを組み合わせた支援を行う。地域連携として、民生委員、医療機関、利用者がよく行く店や食堂、地域の住民と連絡を取り合っている。	365日 オープン 日以来休 業日無し	通所、泊 り、訪問 を組み合 わせた利 用	管理者1名 (看護師兼 務) 正職員6名 パート職員 12名 計19名	館林在住で在宅を基盤とした生活を続けたい方 契約者数 23名
地域密着デイ の喜楽の事業	介護保険において自宅での生活を支えるため通いで介護サービスを行う事業	310日 日曜日 及び 12/30～ 1/2休業	地域密着 デイの 喜楽	管理者1名 看護師2名 (相談員兼 務1名) 正職員3名 パート介護	契約人数 31名 延べ利用者数 3,519名 1日平均 11.3名 館林在住で介護認定を受けた方

				職員 3名 計 9名	
訪問介護事業	介護保険において自宅での生活を支えるために訪問して介護・家事援助を行う事業	日曜日 及び 12/30~ 1/2休業	利用者宅を訪問	管理者1名 正職員1名 パート介護職員 4名 計 6名	自宅で介護・家事援助の必要な方 利用者数 47名 介護 28名 予防 19名
ケアプラン 介護相談事業	介護保険において自宅での生活を支えるために必要な介護サービスの提供を利用者等と相談し、サービスの提供を支援調整する事業	日曜日 及び 12/30~ 1/2休業	ケアプラン介護相談の喜楽事務所	管理者1名 介護支援専門員 2名 事務員1名 計 4名	介護サービスが必要な方 利用者数 110名 要介護 87名 要支援 23名
講演会の開催 (法人戦略)	「少子化について考える」をテーマに講演会とパネルディスカッションを開催。	5年9月 開催	文化会館 小ホール	来場者数 35名	講師に高崎経済大学名誉教授、大宮登先生を招いた。
会報の発行	年3回会報を発行して活動の内容を広報している。49号は多々良地区近隣にミニカレンダーと共に4000部のポストिंगを行った。	年3回 発行日	6100部印刷 令和5年 7月25日 令和5年1 1月25日 令和6年 3月25日	会員・サービス利用者等に配布 第48号(700部) 第49号(4700部) 第50号(700部)	
ホームページ	各事業所隔月でブログを更新。 求人情報も適時更新している。	http://otagaisamaegao.net/			
関連事業 「認知症の人と家族の会」	公益社団法人「認知症の人と家族の会」が開催する「家族のつどい」東毛地域を担当した。認知症の人を介護している家族等の交流を開催。家族の悩みや困り事を共有することによって介護負担の軽減を図る。		太田 館林 伊勢崎	つどい 15回参加 世話人会議 12回参加	延べ参加者約 82名
勉強会・協議 体	生活支援体制整備事業。県及び東毛地区の各自治体が開催する勉強会に参加した。	アドバイ ザー役	明和町	3回参加	介護予防、日常生活支援総合事業の推進
「スマイル」 買い物ツアー	「スマイル」～住みよい北成島を考える会に入会、買い物ツアーを計画・開催した。	5年9月 開始	北成島町 松沼町	4回開催	延べ参加者 17名 協力者 2名
講演会協力	群馬の地域をトルネードフォーラムin館林「共生社会をめざして」開催に協力。	6年2月 開催	アゼリア ホール	約80名 参加	主催：さわやかインスト・パートナーネット群馬

(2) 収益事業

- ・収益事業の実施はありませんでした。

3 会議の開催に関する事項

(1) 第24回定時社員総会

- ・日時 令和5年5月10日（水曜日） 午後6時00分～7時30分
- ・会場 北成島町区民会館 群馬県館林市北成島町2881-2
- ・議題 第1号議案 令和4年度事業報告・決算報告 監査報告
第2号議案 令和5年度事業計画・活動予算
第3号議案 役員変更の件

(2) 理事会 全9回

事業計画に基づき事業の進捗状況報告や意見検討を行った。

	開催日	主な会議の内容
第1回	5年 4月21日	令和4年度収支確認、食事代値上げ検討、総会役割決定
第2回	5年 6月16日	北成島町買い物ツアー検討、年1回講演会テーマ「少子化を考える」に決定
第3回	5年 7月21日	北成島町お祭り参加検討、令和5年10月最低賃金見直し、賃金改善について
第4回	5年 9月15日	ベースアップについて、講演会について
第5回	5年10月20日	中間決算報告、人材確保活動報告、グループホーム喜楽修繕の件
第6回	5年11月17日	5年後ビジョン、新たに取り組む活動について状況報告と検討
第7回	6年 1月19日	一時避難所 赤い羽根共同募金採択・募金集めの件
第8回	6年 2月16日	令和6年度法人目標の件、新たに取り組む活動具体案の件
第9回	6年 3月15日	令和6年4月ベースアップの件、総会の件、令和5年度収支予想について

(3) 責任者会議 毎月1回 全12回

行事予定や各部署での課題を担当責任者で共有し、意思統一と部署間の情報共有を行った。

(4) 支え合い活動

- ①協力会員総会報告会 コロナ禍により中止
- ②協力会員懇談会 コロナ禍により中止
- ③令和5年12月1日より運転時のアルコールチェックを導入した。

(5) よってこ松沼

- ①運営検討会 開催実績なし
- ②スタッフ会議
毎月の行事予定と今度の利用拡大のための対策を話し合った。全12回。

③広報活動

松沼町区民会館を使ったイベントは年に3回開催できたが、日頃の利用者増加には繋がらなかった。
松沼町役員との話し合いの結果、松沼町回覧板で月1回の広報が出来た。

(6) グループホーム喜楽

- ①運営推進会議 奇数月1回 全6回
- ②家族会 年1回 書面にて開催
- ③職員会議 毎月1回 全12回（ケアプラン会議は奇数月、全6回）
- ④避難訓練 毎月1回 消防署立ち合い…6月、11月

(7) デイサービスセンター喜楽

- ①家族のつどい 今年度もアンケートのみ実施し、結果を報告した。
- ②職員会議 毎月1回 全12回
- ③運営推進会議 グループホームと合同 全2回
- ④避難訓練 毎月1回

(8) 多機能ケアの喜楽

- ①職員会議 毎月1回 全12回
- ②家族会 年1回
- ③運営推進会議 グループホームと合同 全6回
- ④避難訓練 毎月1回

(9) 地域密着デイの喜楽

- ①職員会議 毎月1回 全12回
- ②運営推進会議 グループホームと合同 全2回
- ③避難訓練 毎月1回

(10) 訪問介護の喜楽

- ①学習会 毎回テーマを決めて学習し、サービス向上に繋げる。 全4回
- ②職員会議 毎月1回 全12回
利用者サービスのモニタリングと状況確認・日程等を調整する。

(11) ケアプラン介護相談の喜楽

- ・地域個別ケア会議 なし
- ・他事業所との事例検討会 年3回（トータルケアサービス、東毛光生園）
- ・職員会議 毎月1回 全12回
- ・定例会議 毎週1回 全利用者を全職員が理解するために情報共有した。
- ・情報交換会 毎月1回 全12回 多機能・認知症デイ・地域密着デイと合同
各事業所の利用者情報を共有し、適切なサービスに繋がた。

(12) ボランティア慰問

本年度は新型コロナウイルス感染拡大により、ボランティア慰問はすべて中止とした。